

- **スペシャルレポート**
Vistaからの移行支援
「7」登場にらみMSが始動
- **クローズアップ**
仕切り直しの電子申請

2009 3/4

特集

6000人の正攻法

三菱東京UFJ銀行「Day2」から学ぶ



藤枝 純教の視点

藤枝 純教(ふじえだ・じゅんきょう)
オープン・グループ日本代表・会長。グロ
ーバル情報社会研究所代表取締役社長。
CRM協議会理事長。日本IBM出身。

IT以外にも役立つ アーキテクチャ記述

情報システムやITの仕事ではなく、ごく普通のビジネスや諸活動をしている人に向かって、「あなたが取り組んでいる活動について、エンタープライズ・アーキテクチャ(EA)として記述してみたいかが」と進言すれば、大抵の人が面食らい、「EAって何ですか」と聞いてくるに違いない。「ビジネスプロセス、情報システム、データ、技術といった諸要素のモデルを作ることです」と説明しても相手はさらに困惑するだろう。

しかし、あらゆる活動について、そのビジネス・アーキテクチャを記述することは重要である。実際、オープンシステムとそれにかかわる標準化を推進する非営利団体オープン・グループは、グループ内にある研究分科会の各責任者に対し、「TOGAFを使って、あなたの分科会のビジネス・アーキテクチャを記述してください」と要請している。

TOGAFとは「The Open Groupアーキテクチャフレームワーク」の略で、EAを策定するための諸手続をまとめたものだ。分科会の責任者はTOGAFを使って、分科会の任務、課題と達成すべきゴール、そのための戦略、組織構造、ビジネスプロセスを、ビジネス・アーキテクチャとして記述している。

さらに、オープン・グループは、TOGAFを使いこなすITアーキテクトやITスペシャリストを認証する資格試験制度の設計にも、TOGAFを利用している。まず、制度の課題とゴール、戦略、

組織、プロセスをモデルとして記述する。次に、知識の有無を問う質問に加え、目標レベルごとにいくつかの状況(シナリオ)を用意し、その類似状況下で、実績として何をどう行ったか、また、新しく行うべきかを問う質問を作った。その上で、経験論文(30～50ページ)試験を課し、インタビュアーが質問、対話した上で検定する。

すなわち、TOGAFやEAをどの程度正しく使えるアーキテクトかどうかを見極める資格試験制度そのものを、TOGAFとEAを使ってデザインしたわけだ。このアプローチは、知識を活用する力を測る資格試験制度を対象にしたものであるだけに、日本においても有効と思う。

というのは、日本の各種資格試験は、知識の有無は判定できるものの、その知識を使って様々な状況下で対処できる力を持っているかどうかまでは、ほとんど判定できないからだ。知識を活用する力は、面接や論文で見られる程度である。このやり方で判断される力は曖昧なものであり、ある資格を持っている人同士、あるいは資格がある人とない人を比較しても、力量の差を見極めることはできない。解決への第一歩は、試験制度のビジネスアーキテクチャを記述することから始まる。

さて、2007年6月11日号から始めた、このスタイルの寄稿は今回でいったん締めくくりにする。今後は、オープンシステムの利用・活用に取り組む人々と連携をさらに深め、新しいコンテンツを発信していきたい。

